

# 林さん、塩田さんらが聖火をつなぐ

4月19日(月)・20日(火)に高知県内で実施された「東京オリンピック2020」の聖火リレー。町内からは塩田充幸さん、林崇さん2名が聖火ランナーを務めました。塩田さんは四万十町役場、林さんはサンリバー四万十(四万十市)を出発地点とし、それぞれ聖火が灯るトーチを手に街中を走り抜けました。



しおた みつゆき  
**塩田 充幸さんのコメント**

トーチに火を灯してもらった瞬間は感動と興奮を覚えた。最初は緊張していたけれど、家族や同級生も応援に来てくれて、楽しんで走れたかな。いつか陸上を教えている子どもたちの中から「オリンピックを目指したい」という子が出たら嬉しいね。



はやし たかし  
**林 崇さんのコメント**

緊張しながらだったけど、沿道に応援してくれる人たちがいて、段々と気分が高揚し、トーチをぐっと握って走り切った。あとは皆さんとオリンピックの成功を祈るのみだなと思う。今後は6月のマスターズ(水泳)に出場するのが目標かな。

## 大方高校の提案でベンチ設置 「防災の日常化」へ

大方高校の生徒らが昨年12月、大方バイパス沿いにある津波浸水域外の空き地へベンチを設置してほしいと国土交通省と町役場へ提案し、ベンチを提供してくれる企業・団体を募っていたところ、黒潮町道路建設促進期成同盟会が手を挙げ、4月14日(水)、ベンチが設置されました。

生徒らは、この場所が普段から地域住民の散歩コースの途中にあることや津波浸水域外であることから、ベンチを設置し散歩の途中に立ち寄ってもらおうことで、防災意識を日常化できるのではという思いから発案したとのこと。

今回ベンチを寄贈した同同盟会は、大方バイパス開通直前の工事にも携わっており、会員である山本建設(株)の山本浩司取締役は、「自分たちも思い入れがある場所。そんな場所で高校生がこうして提案をしてくれたから」という思いで協力したということ。また、ベンチの寄贈に加え、同月2日(金)に行われたベンチの基礎工事の際には、(有)池田造園の協力により2本の桜が植樹されました。

同校地域創造コース3年の田辺真喜さんは、「桜の木まで提供してもらえるととは思っていなかったのが嬉しい。津波浸水域外という防災意識だけでなく、地域の人のためのユニケーションの場にもなれば」と話しました。



ベンチに座る高校生ら

### 四国アイランドリーグplus公式戦

**高知ファイティングドッグス**

**VS**

**徳島インディゴソックス**

**【日時】5月22日(土)、23日(日)**  
**午後1時～試合開始**

**【場 所】大方球場(黒潮町入野6931-1)**

入場  
無料

※新型コロナウイルス等感染拡大防止の観点から入場人数の制限を設ける場合があります。